

附属資料

金沢港将来ビジョン検討委員会名簿

	氏名	役職	職名
委員長	大脇 崇	公益社団法人日本港湾協会	理事長
委員	池本 良子	金沢大学	名誉教授
委員	榎田 真也	金沢大学	教授
委員	長利 啓正	株式会社小松製作所 金沢工場	工場長
委員	神崎 直志	北陸地域 CNP 広域輸送検討会	委員
委員	坂本 英之	金沢美術工芸大学	名誉教授
委員	嶋崎 正朗	石川県漁業協同組合	副組合長理事
委員	下沢 佳充	金沢みなと懇話会	会長
委員	高桑 幸一	金沢駅西振興協議会	会長
委員	高山 純一	公立小松大学	教授
委員	中倉 弘貴	株式会社サンスターライン北陸営業所	所長
委員	長谷川 由香	子育て向上委員会	代表
委員	藤村 一志	一般社団法人金沢港振興協会	専務理事
委員	堀岡 修次	株式会社金沢港運	代表取締役社長
委員	溝口 道晴	日本通運株式会社北陸支店	支店長
委員	村山 公崇	一般社団法人 日本外航客船協会 法務保険委員会	委員
委員	佐々木 規雄	北陸地方整備局港湾空港部	部長
委員	福井 明裕	金沢海上保安部	部長
委員	新保 博之	金沢市	副市長
委員	高橋 実枝	石川県企画振興部	部長
委員	光永 祐子	石川県商工労働部	部長
委員	鈴見 裕司	石川県土木部	部長
オブザーバー	加賀谷 俊和	国土交通省港湾局計画課	港湾計画審査官

敬称略、五十音順（委員長、行政機関除く）

## 金沢港将来ビジョン検討委員会開催履歴

---

2023年（令和5年） 4月28日	<b>第1回 検討委員会、幹事会 ※合同開催</b> ➤ 金沢港の現状と課題、今後の予定、委員会設置要綱について
2023年（令和5年） 8月31日	<b>第2回 幹事会</b> ➤ ニーズ調査の結果、ニーズ調査を踏まえた課題整理、基本方針と施策の方向性の確認について
2023年（令和5年） 10月16日	<b>第3回 幹事会</b> ➤ ニーズ調査の結果、目指すべき将来像と重点戦略及び施策、空間利用計画（ゾーニング）について
2023年（令和5年） 10月31日	<b>第2回 検討委員会</b> ➤ 将来像、基本方針、空間利用計画（ゾーニング）について
2024年（令和6年） 1月頃予定	<b>第4回 幹事会</b>
2024年（令和6年） 2月頃予定	<b>第3回 検討委員会</b>

---

## 金沢港将来ビジョン 用語集

用語	定義
インバウンド	外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。
上屋	荷揚げした貨物や船に積込む貨物の荷さばきや一時保管を行うための施設で、通常、ふ頭内に配置される。貨物の保管を目的とする倉庫とは異なる。
エコツーリズム	自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のあり方
オーバーツーリズム	観光地において、訪問客の著しい増加等が、地域住民の生活や自然環境、景観等に対して受忍限度を超える負の影響をもたらしたり、観光客の満足度を著しく低下させるような状況。
オルタナティブツーリズム	マス・ツーリズムへの批判が大きくなるにつれて生まれてきた、マス・ツーリズムにとってかわる観光を意味する。旅行者が観光地などの自然や文化的伝統を破壊してしまうというマス・ツーリズムから生じた弊害を克服し、新しい観光のあり方を追い求めていこうとするもの。
カーボンニュートラル	温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させる概念。
カーボンニュートラルポート	国際物流の結節点・産業拠点となる港湾において、水素、燃料アンモニア等の次世代エネルギーの大量・安定・安価な輸入や貯蔵等を可能とする受入環境の整備や、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化、集積する臨海部産業との連携等を通じて温室効果ガスの排出を全体として実質ゼロにすることを目指すものをいう。
ガントリークレーン	コンテナターミナルに設置される、船舶との間でコンテナ貨物の積み卸しを行うためのクレーン。アーム部分が長いので、大型コンテナ船の貨物の積み卸しに対応できる。
岸壁	船舶を着岸、係留させて、貨物の積み卸し、船客の乗降等の利用に供する施設。
グリーンツーリズム	農山漁村に滞在し農漁業体験を楽しみ、地域の人々との交流を図る余暇活動のこと。
クルーズ船	船旅に必要な宿泊施設やその他レストラン、バー、プールなどのレクリエーション設備を備えた客船。
航路	船舶などが海上を航行するための通路のこと
港湾計画	港湾法により港湾管理者が策定する長期的な港湾の開発利用保全の基本を定めた計画のこと。
港湾関連情報処理システム	入出港する船舶・航空機及び輸出入される貨物について税関その他の関係行政機関に対する手続及び関連する民間業務をオンラインで処理するシステム。
コンテナ	貨物、特に雑貨輸送の合理化のために開発された一定の容積をもつ輸送容器。アルミ製が主流。サイズは通常、海上輸送では 20、40 フィートが主流で、JR 貨物では 12 フィートが主流。
コンテナターミナル	コンテナ輸送方式における海上輸送と陸上輸送の接点となる港湾施設。船へのコンテナの積み卸しや、コンテナの保管・輸送、これに要する各種荷役機械の管理等をつかさどる一連の施設を有するエリア。荷役機器は RTG、ストラドルキャリアなどが使われる。
コンテナハブ港湾	コンテナ海上運送の中継拠点となる港のこと。

用語	定義
再生可能エネルギー	「非化石エネルギー源のうち、エネルギー源として持続的に利用することができる」と認められるものとして、太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、大気中の熱その他の自然界に存する熱、バイオマスが規定されている。
サイバーポート	港湾管理者に関連する行政手続や調査・統計業務の電子化・効率化を図った国で実用化予定のシステム。
次世代エネルギー	燃焼時に CO2 を排出しないため、2050 年のカーボンニュートラル達成に向け、必要不可欠とされているエネルギー。水素・アンモニアが期待されている。
シャーシ	自動車の車台のこと。港湾では、特にコンテナを載せて移動させる台車のことをいう。
重要港湾	港湾法で定められた港格の一つ。海上輸送網の拠点となり、国の利害に重要な関係を有する港湾であり、2021 年現在、全国で 102 港が指定されている。この他に国際競争力の強化を重点的に図ることが必要な国際戦略港湾、国際海上輸送網の拠点として特に重要な国際拠点港湾があり、これら以外の港湾は地方港湾という。
浚渫土砂	船が安全に航行・停泊できるように海底を掘削して発生した土砂。
水上バス	港湾地域を運航する定期航路およびその航路を運航する船舶。
スーパーヨット	一般的に外国人富裕層などが個人所有する全長 80 フィート以上 (24m 以上) の大型クルーザーのこと。別名「メガヨット」と呼ばれることもある。
倉庫	貨物や物品などの貯蔵、保管をするための建物。
ゾーニング	自治体が自らの行政区画について、どのような土地利用が望まれるか、開発が可能かについて、条件や区分などの設定に応じて地図上に色分けをして示すことにより、秩序だった土地利用や開発を促す手法のこと。
耐震強化岸壁	大規模な地震が発生した場合に、被災直後の緊急物資及び避難者の海上輸送を確保するために、通常よりも耐震性を強化して建設される岸壁。
耐震強化岸壁 (幹線物資輸送)	大規模な地震による災害が発生した際に、経済活動を支える上で必要な物流機能の維持に資する耐震強化岸壁。
定期コンテナ航路	週毎など一定の期間毎に、コンテナ船の運航が行われる航路。
トランシップ	積み荷港から輸送された貨物を、途中の港で別の船に積み替えることを指す。
内貿 (貨物) 外貿 (貨物)	内貿とは日本国内の海上輸送を指し、これで取扱われる貨物を内貿貨物という。外貿とは、日本国内と日本国外との間の貿易のことで、これで取扱われる貨物を外貿貨物という。
ハイブリッド型 トランスファークレーン	吊り上げたコンテナを降ろす際に発生するエネルギーを蓄電装置に蓄積し、再利用することのできるコンテナヤード内のコンテナを運搬・整理するときに使われる巨大な門型のクレーン。
泊地	港湾内で船舶が安全に停泊することができる水面のこと。
みなとオアシス	「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取組が継続的に行われる施設として、国土交通省港湾局長が申請に基づき登録するもの。

用語	定義
モーダルシフト	トラックによる貨物輸送を船または鉄道などの大量輸送機関に切り替えること。ドライバー不足や交通渋滞、大気汚染を解消するため、特に大量一括輸送が可能となる幹線輸送部分を内航海運や鉄道貨物による輸送に転換すること。
ランドマーク	目印となる建物や地形などの特徴的な場所や施設。
リーファーコンテナ	生鮮食品など、冷蔵・冷凍の低温輸送を行うために冷却装置を内蔵したコンテナのこと。
陸上電力供給施設	停泊中に船舶のエンジンを停止し、船舶内で必要な電力を陸上から供給する。船舶内発電機の運転を抑制することで、CO2 排出量の削減が可能となる。
臨港地区	港湾の利用や管理に必要な陸域のことで、建物の建設などについて港湾管理者が規制を行うことができる範囲のこと。
AI	Artificial Intelligence の略。人工知能とも訳され、知的な機械、特に知的なコンピュータプログラムを作る科学と芸術のこと。
BCP	Business Continuity Plan の略。大地震等の自然災害等が発生しても、当該港湾の重要機能が最低限維持できるよう、自然災害等の発生後に行う具体的な対応（対応計画）と、平時に行うマネジメント活動（マネジメント計画）等を示した文書のこと。
DX	デジタルトランスフォーメーションの略。進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をよりよいものへと変革することを指す。
EV カート	時速 20km 未満で公道を走ることができる周遊観光するための電動カートを活用した新たな観光モビリティ。
GT	Gross Tonnage の略。船全体の容積を示し、船の大きさを示す指標に用いられる。100 立方フィートまたは 2.83 立方メートルを 1 トンとする。
GX	グリーントランスフォーメーションの略。温室効果ガスを発生させる化石燃料から太陽光発電などのクリーンエネルギー中心へと転換し、経済社会システム全体を変革しようとする取り組みを指す。
LED	Light Emitting Diode の略。「発光ダイオード」と呼ばれる半導体のことで、電圧を加えると赤、黄、桃、青、緑、白の光を発します。
LNG バンカリング	船舶燃料として LNG（液化天然ガス）を供給すること。
RORO 船	Roll on Roll off 船の略。貨物をトラックやフォークリフトで積み卸す（水平荷役方式）ために、船尾や船側にゲートを有する船舶。
TEU	20ft 換算のコンテナ取扱個数の単位。20ft コンテナ 1 個を 1TEU として計算する。（40ft コンテナ 1 個は 2TEU と計算する。）

本冊子「金沢港将来ビジョン」に含まれる施策や空間利用計画（ゾーニング）、施設イメージ等の内容、位置等の情報は、構想として概略的に表現したものです。また、今後の社会経済情勢の変化等により、記載内容に変更が生じる可能性があります。

〈問い合わせ先〉 〒920-8580 石川県金沢市鞍月 1 丁目 1 番地



石川県土木部港湾課

TEL : 076-225-1746

FAX : 076-225-1747

HP : <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/>